

mokuyou@mx35.tiki.ne.jp

<http://www35.tiki.ne.jp/~mokuyou/>

SSTK NO. 119

特定非営利活動法人

木ようの家



編集人 NPO 法人木ようの家（地域活動支援センター木ようの家）

運営日 月～土 9:30～16:00

〒285-0014 佐倉市栄町7-15 TEL/FAX 043-486-7686

郵便振替口座 00100-4-39320 加入者名 木ようの家

<木ようの家>

卷頭言	1
クリスマスコンサート	2
社会参加活動（バザー）報告	3
ふれあいギャラリー	
介護等体験実習生感想	4.5
親の会活動	6
会員・寄付者 賛助会費のお願い	7

<まあるい会>

手記	8
まあるい会近況	11
お知らせ	12



謹んで新春のお慶びを申し上げます

昨年末のクリスマスコンサートでは、メンバー一人ひとりの成長を感じることができ、心温まるひとときを過ごすことができました。日頃よりご支援くださるスタッフやボランティア、そして賛助会員の皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

世界に目を向けると、日本では当たり前と思っていることが、他国では必ずしもそうではないことに気づかされます。例えば、トイレ事情ひとつをとっても、トイレットペーパーを流せない国は数多くあり、街中でトイレを探すのに苦労することがしばしばあります。日本の快適な生活がいかに恵まれているか、改めて実感します。帰国後、空港の温かい便座にホッと触れたとき、日本に生まれたことのありがたさをしみじみと感じます。

しかし、このような日常も、災害や戦争などによって一瞬で失われてしまいます。そうした事態が起こらないことを願うとともに、日頃からできる限りの備えをしておくことの大切さを痛感しています。

世界情勢の不安定な中、平和な日々に感謝しつつ、心新たに、今できることに精一杯取り組んでいきたいと思います。本年も、変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

皆様にとって、2026年が素晴らしい1年となりますように～

理事長 山崎静江

クリスマス会♪

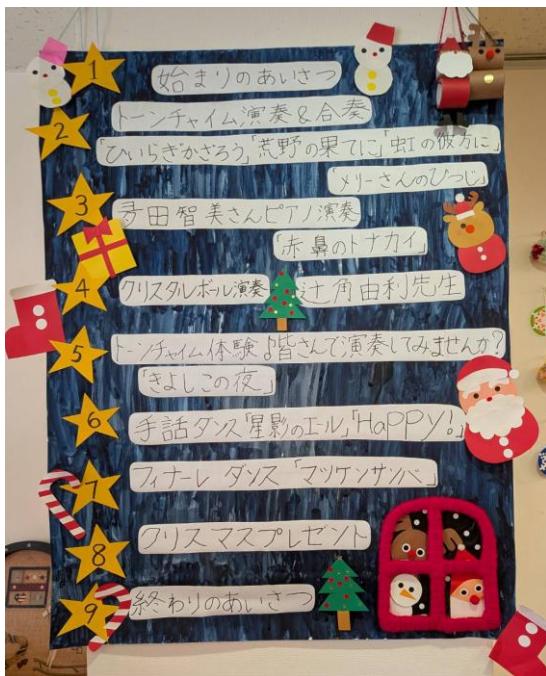
12月20日(土)日頃お世話になっているボランティアの方や保護者の皆様をご招待してクリスマス会を開催しました。

まずは、「ひいらぎかざろう」「荒野の果てに」「虹の彼方に」のトーンチャイム演奏をしました。「メリーサンのひつじ」の合奏では、カリンバをりょう君、グロッケンをゆうすけ君、キーボードをまやさんとなつみさんが順番にメロディーを演奏してから、メンバーみんなで合奏をし、練習の甲斐あってお互いの音をよく聞いてリズムよく演奏できました。そして、「赤鼻のトナカイ」をともみさんがピアノ演奏しました♪

辻角先生による“クリスタルボウル”的演奏は、体に響く深い音色に心身共に癒されました。その後、会場のお客様に「きよしこの夜」のトーンチャイム演奏に参加いただき、皆さんで歌いました♪

最後は、手話ダンス「星影のエール」「Happy!」と、ダンス「マツケンサンバ」をメンバーが元気よく踊り盛り上りました！辻角先生へ日頃の感謝を込めてプレゼントを贈り、会場のお客様へのぼる君＆りょう君サンタがクリスマスプレゼントを配りました！理事長山崎さんのご挨拶と、司会のあいちゃんが終わりのことばを述べて閉会。あたたかい拍手をいただきアットホームで素敵なクリスマス会になりました！

スタッフ 小林 薫



社会参加バザー報告

10月11日(土)、ユーカリ南公園でのふくしフェスタ、そして、11月8日(土)、草ぶえの丘で開催された産業まつりでのバザーに木ようの家のメンバーの作品を出品いたしました。

ふくしフェスタは雨天のため志津コミュニティセンター館内での開催となりましたが、舞台はダンス、演奏など日頃の練習の発表で盛り上りました。バザーでは、木ようの家の作品はもちろんのこと他の施設の作品も所狭しと並べられました。産業まつりは広々とした園内で秋晴れの中、木ようの家はじめ多種多様な団体が参加し多くの人で賑わいました。

両日とも木ようの家の作品はとても人気があり、メンバーやお母様たちの呼び声に誘われるまま買い求める方が多く大盛況の中、幕を閉じました。

また、親の会＆まあるい会を中心に11月30日(日)に中央公民館で開催された市民活動発表会および、12月13日(土)、ふれあいギャラリーを開催中の佐倉市美術館でのバザーにも参加しました。



ふれあいギャラリー

12月11日から14日の4日間、佐倉市立美術館で行われた障がい者作品展「ふれあいギャラリー」に出展しました。私たちは毎年この作品展に参加し、作品づくりを通して、たくさんの学びや喜びを感じています。

今年の作品は、昨年に引き続き「布貼り絵」に取り組み、動物たちをモチーフにした作品『みんなちがって、みんないい』を制作しました。一つひとつの作品には、それぞれの個性や思いが表れており、やさしさあふれる仕上がりになりました。

多くの方からあたたかいメッセージや励ましのお言葉をいただき、心より感謝しています。

来年も、みんなで楽しみながら作品づくりに取り組み、素敵な作品をお届けできるよう頑張っていきたいと思います。



木ようの家では、今年度5名の「介護等体験」実習生を受け入れました。実習期間中、5人の皆さんは木ようの家にフレッシュな風を運んでくれました。今回、その実習を終えた皆さんに、アンケート形式で感想を伺いましたのでご紹介します（一部抜粋）。

1.これまで障がいをもつ子あるいは障がいを持つ方と関わった経験は？

小学校のころ学校にダウン症をもっている子が通っていて、そこで一緒に遊んだりしました。その当時はキスをされたり、なめられたりして嫌だなと思っていた反面、そういう子がいるということを認識していたので、そういう子も一緒に楽しくすごしたいなと思いました。

大学が募集していた、「ちばパラ」というイベントに参加しました。障がいを持っている方と一緒に運動することが楽しかったです。

2.木ようの家のメンバーたちと関わってどうでしたか？

スタッフの皆さんには、利用者一人ひとりのことをよくわかっていて、だめなことはしっかりと注意して、良かったことはたくさんほめていました。利用者の方も伸び伸びしていて、笑顔を見てくれるたびに自分自身もうれしくなりました。初日よりも距離が縮まり、たのしく実習を行うことができました。

今回関わってみて、本当にメンバー思いの良い場だと感じた。誰にでも居心地の良い場で、自分まで優しい気持ちになれました。

みんな良い子たちばかりで感心ばかりの5日間でした。また、それぞれの子が実際に職場で働いていて社会に参加していく良いなと思いました。この5日間で色々なメンバーと関われてよかったです。

最初はどうに接したらいいかがよく分からなかったのですが、スタッフの方が（メンバーが）どういう子なのかなど、たくさんのこと教えてください、メンバーの方たちとお話をしたりクラフト作業を一緒にすることができて、すごく楽しかったです。



一人ひとり得意なことや苦手なことが違ったり、コミュニケーションの取り方も違ったりするため、しっかりと観察して工夫をする必要があると感じました。しかし、みんな表現の仕方が違うだけで、しっかりと「したい事」がはっきりあって、とても良いなと思いました。



3.点字名刺体験はどうでしたか？

点字の構成の仕組みは理解することはできたのですが、実際に触ってみると何の文字を表わしているのか全く分かりませんでした。点字を打つときに、どのくらいの力で打てばよいのかが難しかったです。はじめて点字を打つ体験ができて楽しかったです。

自分の名刺を作ってください、点字を打つ体験をさせていただき、点字を並べる作業がとてもこまかく大変でした。メンバーの方は点字名刺のお仕事をしているということも知ることができました。

4.メンバーの職場見学の感想は？

とてもイキイキと楽しそうに働いている姿をみて衝撃を受けました。障がい者は普通に働けないと思っていた自分に腹が立ち、障がい者に対して申し訳なくなりました。できないと決めつけるのではなく、できるような環境を作ることで不可能だったことが可能となると感じました。

メンバーの方も社会で、一人前に働いていて、全く障がいのあるように見えませんでした。周りの人が工夫することの大切さを学ぶことができました。

智美さんの職場を見学して、主にタイピングをする仕事でした。間違いのないように見直しをちゃんとしていて、しっかりしていると思いました。

週に1回働きに行っている場を見学させていただきました。シールをはったり、シュレッターをかけたりなどの作業を行っていました。障がいがある人でも、社会の場で仕事が出来る環境があるということを知りました。

5.親の経験談を聞いてどう感じましたか？

障がいのある人は特別支援学校に行くことが普通だと思っていたけれど、お話を聞いて、同じように小・中・高に行くことで、社会で生活をする力を身につける機会を得ることができるのだなと感じました。貴重なお話を聞くことができて、とてもよかったです。

自分が思っている以上に周りの環境というのは大切だと学びました。障がいのある子とない子も、ともに生きていける環境づくりに自分も携わっていきたいと感しました。

社会の場には特別な場所はないのだから、小・中・高の学生の頃から特別支援学校に行くことなく、普通学級で卒業することが重要だという強い意志も感じました。障がいがあるというだけでひとくくりにするのではなく、一人ひとりに個性があり、一人ひとりを見ることが大事だと言うことを学びました。



皆さん5日間お疲れ様でした！今後も学生ボランティアとしてお付き合いください。

❶「防災クッキングと防災講座」

防災講座の第2弾を9月27日(土)に行いました。

目玉は「防災クッキング」です。親子で鯖トマトカレーライス、ひじきの煮物、蒸しパンを作りました。材料をアイラップに入れてお湯で茹でたらご飯もカレーも出来上がり。メンバーも一緒に作りました。みんなペロリと平らげました。

大きな地震や台風等の災害時には、停電、断水、ガスの停止、下水の使用不可等多くの弊害が発生します。そんな時に役に立つのが、この「アイラップ」等を使った調理法です。災害時には水はとても貴重です。少ない水で調理し、鍋や皿を洗わなくても良い、ゴミも少ないという災害時に有用な調理法です。ぜひ家族で試してみて下さい。

千葉県では今後30年で70%の確率で首都直下地震の発生が懸念されています。佐倉市でも震度6弱～震度7が予測されています。

住宅の耐震化や家具の固定など、また1週間分の防災トイレや水、食料等の備蓄等できるところから少しづつでも準備しましょう。

防災士 柳原薫



今年も大掃除をしました

12月26日(金)、メンバー、おうちの方、スタッフ総出で大掃除をしました。床のワックスがけ、窓ふき、倉庫の片づけに加え、天井に備え付けの2台のエアコンのフィルター掃除、入り口のガラスのドアに飛散防止のフィルムを貼りました。お父さん達が大活躍の1日でした。



利活動法人木ようの家をご支援頂きありがとうございます

正会員 5,000円／年 団体会員 10,000円／年 賛助会員 3,000円／年

郵便振替口座 00100-4-39320 加入者名 木ようの家
郵便局以外からのお振込み 店名 019(ゼロイチキュウ)店 店番 019
預金種目 2当座預金 口座番号 0039320

正会員 2025年度 22名

個人名の記載省略

賛助会員 2025年度分 41名 12月31日まで会費を納入いただいた方（順不同・敬称略）

個人名の記載省略

団体会員 2025年度分 5団体

法人名の記載省略

寄付 12月31日までにご寄付をくださった方（順不同・敬称略）

個人名の記載省略

お手伝いをいただいた方（敬称略）

個人名の記載省略



まあるい会

N0.148

編集人 まあるい会代表 米澤 しのぶ
〒285-0025 千葉県佐倉市鎧木町743-4 TEL

一障害のある子もない子も共に学び、遊び、育ち合うことのできる学校でありたい—

「分けないで！」～全国交流集会 in 埼玉に参加して～

成田市 渡邊 みさ

「わけないで！わけないで！あなたのつごうで分けないで！」という参加者の大きな掛け声で「第22回障害児を普通学校へ・全国連絡会 全国交流集会 in 埼玉(11/22、23)」がスタート。

【全体会】

22日の全体会は参加者の熱気でいっぱい。参議院議員の天畠大輔さん、木村英子さんもご参加下さり、ご挨拶をいただいた後、東大大学院の小国喜弘教授の司会で、シンポジウム～出でられないのはなぜ？～が行われ、埼玉のこれまでの障害者運動の歴史の映像も流れされました。

【分科会】

その後、4分科会に分かれ話し合いが行われました。

私は原点である就学前を話し合う第1分科会「まずは保育園、幼稚園、学校で会いましょう」に参加。

◆ 始めに埼玉県新座市の木村俊彦さんから「共に学ぶために行政を動かした先進的な取り組み」が紹介されました。

◆ 次に、大阪の松森俊尚さんからは、1872年(明治5年)学制発布以来150年以上経っても「できる・できない」の価値観に支配された教育の中身は何も変わっていない。日本の能力神話が学校にも親にも社会にも蔓延している。障害のある児童・生徒、保護者は支援学校・学級に「誘導」されている。障害のある子もない子も全ての家庭に「私たちの学校にいらっしゃい。一緒に学びましょう。待っています!!」と呼び掛ける就学通知が届く日が来る事を願っている。と勇気・元気をいただくお話をありました。

◆ 1日目の最後、北海道恵庭市の勝又さん親子からは「特別支援学級から普通学級へ転籍し楽しく学校生活を送っている報告」があり、娘さんにも「色々な生き方に触れて自分の人生を切り開いてほしい」とお話をありました。

◆ 2日目は市原市のKさんの報告「保育制度で分けないで」でした。

制度を変えた経緯は以下です。

- 2016年障害者差別解消法が施行された年に次男が誕生しダウン症と診断される。す

ぐに長男の通う私立保育園に伝えると「無理よ、私立だから受け入れられないの。障害のある子は公立しか入れないの。お兄ちゃんも公立に移すことを考えた方が良いわ」と信頼していた園長から言われ大きな衝撃を受ける。

■そんな時、千葉市地域で生きる会の高村さんと出会う。市から説明を受けていた項目→①障害児を受け入れるのは限られた公立保育所であること。②集団保育が可能かどうか、その子の発達に必要な医師の判断が求められること。③障害児だけ体験入所があること。これら3項目は障害児だから仕方がないと思っていたが、高村さんたちの話を聞いて「これは差別」だと気づいた。

■そしてここから2年に渡る市との話し合いが始まった。

まず「障害のある子の保育所入所における差別の解消を求める要望書」を市長に提出。→すぐには対応してもらえず、次男は公立、長男は私立と車で40分離れた別々の保育園に通う生活が始まる。→その後も毎月市役所へ足を運び改善を求める。

■翌年、公立・私立を問わず選べるようになり、私立に助成金制度成立。→しかし、まさかの次男の転園保留通知が届く

■そして、2年間の交渉の末、2019年1月21日、念願の兄弟一緒の私立保育園通園が叶う通知が届く。

■現在次男は小3で「いろんな子どもたちが一緒に過ごし育つ環境がみんなにとって良いこと」と語る温かい校長先生のもと学校生活を楽しんでいる。

〈あの時学んだのは「知らないこと」によって、差別や不利益を受けていることに気づかなかっただこと。しかし、声をあげれば社会は変わること。次男が生まれてくれたことでその大切さに気づき、この体験を語っていくことが同じ立場の親子の力になると信じている〉以上のような報告でした。

■この分科会には、前参議院議員の船後靖彦さんも駆け付けて下さり「幼少期からの関わりがあれば差別は生まれない。共に過ごしたお子さんが教師になったら何の疑問もなく受け入れるでしょう。それが2~30年後の意識を変えると信じている」という内容のお話は印象的でした。

【閉会】

全員がホールに集まり、各分科会の報告がされ、来年10月10(土)、11日(日)熊本で高校の全国集会が開催されるとお知らせがあり盛会のうちに終わりました。

～その後～

【北村小夜さんが「一緒にいいならなぜ分けた」に込めた思いを語る会】

埼玉の集会後、同日夕方から東京で行われた、小夜先生の100歳をお祝いする会&思いを語る会にも参加しました。11月に100歳を迎えた小夜先生のお話は何度伺っても心に響き勇気をいただきます。22年前、純の就学前に先生からいただいた「純くんが普通学級に入らなくて誰が入るの！」という言葉はずっと私たち親子の宝物です。22年前に私が手にした本「一緒にいいならなぜ分けた」は赤線だらけ、付箋だらけ。今回、増

刷された本の帯には「理不尽な分離はなくなったか？ひととひとを分けるとき、分けられた側が生み出される。分離に向き合う教師と子どもたちの葛藤と奮闘、20年の記録。」とあります。今回の埼玉の集会スローガンも「分けないで！」必ずこのスローガンをなくすべく声をあげていきたいです。

今年、七回忌法要を行った純も大空から応援してくれています。

みなさん、一緒に進んでいきましょう。



2025.12.18

ひと

障害の有無に関係なく、全ての子と一緒に学ぶインクルーシブ教育の実現を訴え続ける。100歳となつた11月、特殊学級（現・特別支援学級）教諭としての21年間を記録した「一緒にいいならなぜ分けた」の増補新装版を出版した。小学校教諭を経て中学校の特殊学級に赴任した1965年。生徒から「先生も落第してきたの？」と聞かれ、「この子たちはここに来ただくなかったのか」と気

障害児を「分けない」教育の実現を訴える元特殊学級教諭

きたむら さよ さん(100)
北村 小夜

づかされた。「できない子に教えられる上等な先生になりたい、という浅はかな抱負が打ち砕かれた」

タイトルは普通学級との交流を促した際の教えた言葉だ。「交流が掲げられるところには必ず冷酷な分離がある」が持論。教えたから多くを学び、障害児を排除した普通学級にこそ不幸が大きいとも考える。結果的に「分ける側」の特殊学級に身を置き続けたことは「犯罪的だった」。退職した後は、障害児の親らでつくる「障害児を普通学級へ・全国連絡会」の世話を40年近く務めた。自身が教師だったころに比べて障害児が普通学級で学ぶ道は開かれたが、分離教育に底流する能力主義や生産性といった価値観は、むしろ社会に広がっているように見える。「分けるな、と言ひながら死ぬことになりそう」。最近は「知的障害のある人を国会に」と訴える。「唐突だけれど、分けない教育を実現するにはもうそれしかないんじゃないかな」

文 審 真 初見

朝日新聞 12月18日



近況



12月に、長女と4人で沖縄のジャングリアに行ってきました。暑さも人もそれほどではなく、優先バスも使いながら、スリル系以外は、ほぼ制覇出来ました。その後、隣のインフィニティ風呂にも入り、大満足でした。また、マングローブカヤック体験もして、やんばるの海をのんびり楽しめました。冬も暖かい沖縄、移住したくなりました。（山崎）

一人暮らしを始めて1年が過ぎました。特に困った事もなく、平日はアパートという生活が当たり前になっているようです。愛は困っていないのですが、体重がじわじわと増加中。ヘルパーさんと作る食事は、愛の好みのものが多く（当然）、仕事帰りのコンビニスィーツもやめられず、母は頭をかかえています。（山本）

グループホームから愛光へ行く道から実家が見えます。父と母が、佐倉に住んでいる時は、一度も実家に立ち寄ったことはなかったのに今は、駐車場に車がとまっていると、必ず家に入ってきて「元気よ」、「お仕事がんばった」と報告してくれる。今度一緒に出かける時CDを買ってもらおうという下心が、チラホラです。（酒井）

昨年も亮のXmas熱は冷めず「白の上下のお出かけスウェット」にサンタの帽子。リュックにミッキー、ミニー他の小振りの縫いぐるみ9個を付けて出掛けます。サンタの帽子は25日迄の限定です。外見が一見若者風なので仕方なく許してますが。今年こそは止めて貰いたい物です。ヤレヤレ・・・。（浅田）

今年の諒は、ややスランプ気味ながら、秋の順大記録会ではシーズンベストの1分56秒台が出た。陸上を始めて10年以上。ケガや不調で欠場したことは一度もない。いつも大会で会う後輩選手たちからは、レース後に、「米澤さん、一緒に写真撮りましょう」とよく声がかかる。それは、とても楽しそうで嬉しい。（米澤）

淳の体重は63kg位をキープ。ジーパンも服もMに買い替えたそうです。本の読み聞かせをしてもらうのが好きで南図書館へはよく行くとか。年末年始は今年も我が家に来るとは言っていないそうなのでお節を届けようと思います。（中村）

「新商品」「期間限定品」は必ずチェックの健吾は、休みの日に食べに行ったり買ってきたり。「割引品」も好きで、「お母さんの好きなアイスが50円引きになってるけどいる？」とお店から大声で電話てくる。ありがたいし悪いことではないんだけど、その年頃の男性としてはもう少し小声のほうがいいよとお願いした。＾＾；（美濃）

2026年度高校受検

今年は高校の会から4名が受検の予定です。

・一般入学者選抜結果発表 3月3日(火) 県教委交渉16時から 会場未定

・二次募集結果発表 3月13日(金) 県教委交渉16時から 会場未定

みんなと一緒に高校生になりたいという子ども達の願いがかなうよう応援しましょう。

お知らせ

まあるい会【問い合わせ o9072194255@gmail.com】

県連絡会の会報誌「そのうちぽつ」の発送作業が2月初めにあります。

短い時間でも構いません。お手伝いの協力をお願いします。

相談はいつでも受け付けております。お気軽にご連絡ください。



共に育つ教育を進める千葉県連絡会【問い合わせ chiba.tomoni@gmail.com】

●茶話会

1月17日(土)10:00~13:00 千葉市穴川コミュニティセンター

千葉「障がい児・者」の高校進学を実現させる会【問い合わせ chiba.kokousingaku@gmail.com】

●定例会

2月7日(土) 4月11日(土) 13:30~16:00 きぼーる15階活動室

3月7日(土)13:30~16:00 千葉市民活動支援センター

●高校一般入学者選抜

試験日 2月17日(火)、18日(水)

合格発表 3月3日(火) 当該校 県教委交渉16時~

二次募集 3月11日(水)

合格発表 3月13日(金) 当該校

●バザー情報

4月5日(日)12:30~ 佐倉ハーモニーホールロビー

「エルマーとりゅう」開演前に親の会中心にバザーを行います。

チケット希望の方は木ようの家でも取り扱っております。



まあるい会

事務局 美濃真奈美

phone & fax 043-489-3356

NPO法人木ようの家

理事長 山崎静江

phone & fax 043-486-7686

編集人 特定非営利活動法人木ようの家 佐倉市栄町7-15

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 川口市芝新町15-9 アステール藤野1階 頒価50円